

第2回飯田市社会福祉審議会 高齢者福祉分科会 議事録（概要）

■ 開催日時 令和7年12月25日（木） 14時53分～15時43分

■ 開催場所 飯田市勤労者福祉センター3階 第3、4研修室

■ 出席委員 17名

氏名	出欠	氏名	出欠
足立 牧子	○	塚平 俊久	○
何原 真弓	○	遠山 清美	×
市瀬 由里子	○	土岐 清人	○
氣賀沢 公彦	○	西田 克美	○
小林 弘	○	林 恵子	○
桜井 幸代	○	松下 規代志	×
幸森 信良	○	松村 和代	○
代田 妙子	○	松村 秀樹	○
田中 光子	○	山田 達朗	○
棚田 淳史	○		

■ 出席事務局 7名

氏名	部・課・係名	備考
林 みどり	福祉部長	
前澤 英明	長寿支援課長	
下島 剛	長寿支援課長補佐兼介護保険係長	
小椋 直美	長寿支援課 基幹包括支援センター係長	
山岸 章広	長寿支援課 介護認定支援係長	
板倉 和代	長寿支援課 長寿支援係長	
原田 麻理	長寿支援課 介護保険係	

1 開会

2 会長あいさつ

今、介護の現場では、人手不足の問題が深刻になっています。実際に物価が上がっていくのにも関わらず、賃金を上げられない・上がらないという状況の中で、介護職がどんどん離れて行く状況にあります。そのような状況下で、来年度、高市政権が介護報酬改定を実施するという方針を固めました。2.03%の引き上げということですので、早急に対応して、介護職離れを止めていただきたいと思っております。

また、国の方針で、特定技能外国人を来年度は12万6千人を受け入れたいと示されています。私たちの事業所も、ネパールから10人ほど来ていただいておりまして、そういった傾向はますます強くなってくると思います。

介護離れ・介護人材不足を様々な方策で補って、事業を継続していくように頑張っていきたいと思っています。今日はそういった状況の中で審議をいただきますが、よろしくお願ひいたします。

3 福祉部長あいさつ

本日は、お忙しい中、令和7年度第2回高齢者福祉分科会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から高齢者福祉及び介護保険事業の推進にご尽力いただいておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。特に、介護事業所の皆様におかれましては、高齢者の暮らしを支える重要な社会基盤を担っていただいていることに、深く感謝申し上げます。

さて、現在、介護現場は先ほどの会長からのお話にありましたけれども、物価上昇や深刻な人材不足といった大変厳しい状況に直面されています。そうした中にあっても、日々現場で懸命にサービスの質の向上に取り組んでいただいている皆様のご努力に、心より敬意を表します。

こうした状況を踏まえ、国は今月、介護分野における「医療・介護等支援パッケージ」それから「重点支援地方交付金」による支援を緊急措置したところでございます。当市といたしましては、県と緊密に連携しながら情報収集を行って、管内の介護事業所・施設への情報提供や周知を適切に行ってまいります。

国がこうした緊急的な支援策を講じたことは、介護が国民のいのちと暮らしを守る重要な社会基盤であると考えており、その維持・強化が喫緊の課題であるという認識の表れではないかと考えております。

当市におきましても、介護人材の確保と介護サービスの質の向上は重要な課題でございまして、ご存じかと思いますが、第9期介護保険事業計画においても重点施策として位置づけて、様々な取組を進めているところでございます。

さて、本日の分科会でございますが、第9期介護保険事業計画の上半期進捗状況、まつお地域包括支援センターの開設や介護予防の取組などをご報告申し上げます。委員の皆様には、現場の実情に即した忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私からの挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

4 報告・協議事項

(1) 分科会委員の交代に伴う本部会委員の追加選任について

質疑応答なし

(2) 令和7年度上半期 介護保険事業計画進捗状況等について（資料No.1）

質疑応答なし

(3) まつお地域包括支援センターの開設について（資料No.2）

委員：わたしは松尾に住んでいまして、まつお地域包括支援センター開設を回組合の回覧板で知りました。包括支援センターのパンフレットは、どこで配布していますか。

事務局：地域包括支援センターのパンフレットは長寿支援課で作成し、地域包括支援センターに配布をお願いしています。また、自治振興センターに配置しています。今後、地域包括支援センターが各医療機関等へ置いていただくようにお願いにいく予定です。

委員：地域包括支援センターを知っている人が少ない状況があるので、組合に配られてよかったですと思います。どういう活動をしているか、ご高齢のみなさんやご家族も含め、ご存じない方もいらっしゃるので、目につきやすいところに置いていただき、手に取って読んでもらえる機会を増やしていただきたいと思います。

(4) 介護予防の取組について（別冊）

委員：2040年問題につきまして、現在、AIやロボットの進歩が著しいですが、2040年までに技術が進歩しない場合は、現在想定されるような問題が起こるかもしれません。しかし技術が進歩した場合は全く別の状況が起こりえると思います。こういった情報収集を進めていっていただきたいと思います。

2点目は、元気高齢者実態調査に関してですが、わたしは接骨院をやっておりますと、非常に理想的な生活をしている患者さんがいらっしゃいます。調査をする以外にも、理想的な生活を推薦・紹介するのも良いと思います。

事務局：ご意見ありがとうございました。AIやロボットの活用については、いま国が力をあげて構築をしています。会長からもありました通り、介護人材不足により、これからは介護ロボットが介護の担い手になってくと思います。医療や介護のシステムを連携しシステムを一元化することも、

国も注力してやっているところです。今後も国の動向を注視しながら、将来を見据えていきたいと考えています。

また、元気高齢者実態調査について、ご意見ありがとうございます。この調査は基本的な設問を県が示しており、長野県内の自治体は同じ設問で調査を実施しています。「こんな生活をしている」といつた市独自の設問も検討していきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

(5) 第10期介護保険事業計画策定について（資料No.3）

質疑応答なし

(6) その他

質疑応答なし

5 連絡事項

6 閉会